

# 2024年度活動計画(案) 2024年度はこのよう活動に取り組みます!

## 2024年度の最重点活動

2024年度は、㈱ダイエーが営業赤字から脱却し、安定的に利益を創出できる企業となるために非常に重要な年度となります。労働組合として、23年度より取り組んでいる生産性向上の取り組みをはじめとした職場視点での経営対策活動について、さらに取り組みを強化する必要があります。

あわせて、㈱ダイエーのイオングループ事業再編についても、24年度中に再編フレームが明確になる可能性を見据え、再編に伴ない発生する各種労使

協議や労組統合に向けて、万全な準備体制を敷いておく必要があります。

また、組合員同士のコミュニケーション活動については、日常のライフスタイルにあわせて、今まで以上に対話を重視し、かつ労働組合が組合員にとって、より身近な存在となれるような活動を進めていくことが重要であると考えます。

以上を踏まえ、2024年度の活動において、下記の3点を最重点活動とします。

- (1)「労働条件の向上」「業績の向上」のサイクルを安定的に循環すべく、職場目標での生産性向上運動に取り組みます。
- (2)各地域の事業再編を見据えた、万全な組織体制の構築に取り組みます。
- (3)労働組合をより身近に感じることができるよう、組合員同士のコミュニケーション機会の充実に取り組みます。

(1)「労働条件の向上」「業績の向上」のサイクルを安定的に循環すべく、職場目標での生産性向上運動に取り組みます。

労働組合として「生産性の向上」に積極的に取り組むことで、「労働条件の向上」「企業業績の向上」を実現させるとともに、これらのサイクルを恒常的に循環させるための体制の構築に取り組みます。また、昨年10月にイオングループ労使による労働協約が締結されたことを受け、今後、個社労使による協議に加え、イオングループ労使協約によって決定した方針に基づき、個社労使で取り組む事例が増えていく可能性があります。私たちの職場の要望や意見をイオングループ労使協約に反映させるためにも、イオン労連の活動に積極的に関わることで、イオン労連との連携をより強化していきます。

(2)各地域の事業再編を見据えた、万全な組織体制の構築に取り組みます。

㈱ダイエーの事業再編について、2024年度中に関東・近畿エリアともに再編の方向性が明らかになる可能性が

あります。したがって、2024年度は東西の事業再編が同時に発生することを想定した上で、再編フレームに応じた対応がスムーズに行なえるような組織体制を構築し、万全な準備を進めていきます。

(3)労働組合をより身近に感じることができるよう、組合員同士のコミュニケーション機会の充実に取り組みます。

日常の組合活動については、イベント企画等のコミュニケーション機会を活発化し、労働組合がより身近に感じることのできる活動を推進するとともに、広報機能を充実させ、タイムリーな情報発信を行ないます。教育活動について、内部教育に加え、イオン労連主催の教育・研修への参加、およびUAゼンセン主催の教育へ積極的な派遣を行なうなど、組合役員、および若年層を中心とした組合役員候補者の活動におけるレベルアップに取り組みます。また、各活動において、成果が今以上に発揮できることを前提に、一般会計の単年度収支バランスの段階的な改善に取り組みます。

## 「5つの輪と8つの活動」～分野別活動のポイント～

### 一人ひとりが高めあう活動



#### 経営対策活動、雇用・労働条件対策活動

##### 1. 職場視点での生産性向上の取り組みによる営業力強化

職場が主体となって、生産性向上に取り組み、業績の向上、労働条件の向上のサイクルが安定的に循環する体制の構築に取り組みます。また、職場オルグ等を通じて、職場の課題を把

握し、各級労使会議体等で組合員の声を経営に届け、課題の改善に取り組みます。

##### 2. 組合員の総合労働条件の維持・向上

生産性三原則に基づき、健全な労使関係を構築することを前提に、依然として+3%(前年同月比)を超える物価上昇や、+3%(前年同月比)を超える有効求人倍率が示す職場の人員不足などに対応するため、2024総合生活向上運動をはじめとした、総合労働条件の向上に取り組みます。あわせて、イオングループ労使で掲げる中期的な生産性目標・労働条件目標の達成に向けて取り組みます。

##### 3. 会社統合を踏まえた雇用の完全確保、および総合労働条件の整備

関東・近畿エリアにおける再編フレームに準じた統合後の新たな労使関係の構築に向けて取り組みます。また、雇用の完全確保を前提に、誰もが安心して働き続けられる総合労働条件の構築に向けて、労使協議を継続します。

##### 4. 企業の働きがい・やりがい向上へ向けての積極的な関与

職場風土・労働環境整備(サービス労働対策、後方諸施設の整備等)、ワーク/ライフ・バランス、ダイバーシティ推進、健康経営、リスクリテラシー(教育体系)、カスタマーハラスメント対策等の様々な会社の取り組みに労働組合として積極的に関わり、ES(従業員満足)の向上に取り組みます。

### 一人ひとりが語りあう活動



#### コミュニケーション活動、教育活動

##### 1. 身近で楽しい活動の推進

ダイエーユニオンのファンづくりを目的に、各種イベント(中央、地域、支部)を実施し、組合活動への参加・参画の拡大をはかります。あわせて、各種会議体や懇談会時に組合員同士の交流を深める機会を創出し、楽しい労働組合を体現します。

##### 2. 充実した情報宣伝活動の継続

ホームページを中心に広報機能をより充実させ、タイムリー、かつビジュアル面でも分かりやすい情報宣伝活動を行ないます。あわせて、機関紙・SNS・HP等の様々な情報宣伝機能の整理を行ない、目的に応じたツールを駆使した情報を提供します。また、組合活動への参加・参画機会のきっかけづくりのために、発信者と受信者双方でのコミュニケーション機会の創出に引き続き取り組みます。

##### 3. 職場の課題解決に向けた取り組みの推進

支部が主体性を持って活動を推進できるよう、迅速な職場の課題解決、および支部活動のサポートに取り組みます。また、各級リーダーが労働組合の存在意義や活動等について改めて理解を深め、支部活動が活性化することを目的に、内部教育の実施、および上部団体教育への派遣を行ないます。支部外組合員、支部外出向者においても、ブロック長による職場オルグを通じた課題解決への取り組み、およびコミュニケーション機会の創出に取り組みます。

##### 4. 組合員との信頼関係構築に向けた組織体制の推進

中央役員、中央委員、支部役員、各級リーダーを選出し、組合活動への理解を深める体制を推進します。また、内部専門委員会の機能を整理し、より職場の声を踏まえた活動を推進できるように取り組みます。

##### 5. 事業再編を踏まえた上部団体、および他労組との連携

KOHOY労働組合との統合準備委員会を継続的に開催し、組織的視点、財政的視点等において、2労組間の活動を整理し、活動の融合をはかります。あわせて、関東・近畿エリアの再編フレームを踏まえて、イオン労連、およびイオングループ各社の労働組合との連携を図ります。

### 一人ひとりが助けあう活動



#### 社会貢献活動、共済活動

##### 1. 総合福祉の実現に向けた取り組み

組合員の仕事、生活に密着したあらゆる相談に対応できるフォロー体制を継続します。あわせて、組合員の生活を豊かにするための一環として、相互扶助の活動であるUAゼンセン共済の加入促進に引き続き努めます。

##### 2. 想いをカタチにする活動の継続

UAゼンセンやイオン労連が取り組む活動を周知し、社会貢献活動への参加・参画機会の拡大をはかります。ボランティア基金を活用しながら、イオン労連が取り組んでいる「水の輪」「イオンハートフルボランティア」への参加、および施設訪問ボランティアの開催を通じた地域社会への貢献活動に取り組みます。

### 一人ひとりが認めあう活動



#### 男女共同参画活動

上部団体の方針に基づき、「男女共同参画アクションプラン」に掲げる取り組みを継続します。また、個々のライフスタイルを踏まえた多様な人材が安心して働き続けることができるよう、意見集約の機会を創出するとともに、課題解決に取り組みます。

### 一人ひとりが支えあう活動



#### 政治活動

##### 1. 政治活動の日常化に向けた取り組み

政治研修会の開催やUAゼンセン、およびイオン労連組織内議員との交流など、様々な機会を通じて政治が身近に感じられる活動を推進します。また、上部団体の方針に基づき、第50回衆議院議員選挙を中心とした、各級選挙における公民権行使に引き続き取り組みます。

##### 2. 第27回参議院議員選挙に対する取り組み

2025年7月施行予定の「第27回参議院議員選挙」において、UAゼンセン、およびイオン労連組織内候補予定者である「田村 まみ」の支援活動に総力を挙げて取り組みます。